

目次

はじめに……………	山口敦史……………i
終わらない聖典——善珠のまなざされる体験……………	渡部亮一……………1
善珠撰述『本願薬師経鈔』と引用典籍……………	山口敦史……………23
大祓の詞の成立——日本古代の薬師経受容をめぐる………	関口一十三……………71
仏教と万葉挽歌——「横死」と出雲娘子挽歌をめぐる………	保坂秀子……………101
「靈異」と仏典注釈……………	津田博幸……………127
——『日本靈異記』下卷第二十六縁をめぐる………	

不定姓と景戒……………山本大介…157

——『日本靈異記』下卷第三十八縁と五姓各別説をめぐって——

奈良時代後半期における儒仏一致觀形成……………富樫進…193

——法進『沙弥十戒并威儀經疏』を画期として——

日本古代の「堂」と仏教……………藤本誠…225

——『東大寺諷誦文稿』における「慰誘言」を中心として——

は善珠（七三二七九七）とみられるが、明記はない<sup>17)</sup>とあり、善珠著作と推測されるものの、決定しがたいところがある。

### 三、『本願薬師経鈔』について

#### a 書誌的内容

『補訂版 国書総目録』第七巻には、

写本 大谷（薬師本願経賛、一冊）・成田（薬師瑠璃光如来本願功德経賛、一冊）

版本 明暦元版／延宝三版／刊年不明

活字本 日本大蔵経 方等部章疏三

とある。写本の大谷大学図書館蔵本（請求記号、余大一九五五）は「薬師本願経賛」の題。タテは約二十七センチメートル、ヨコは約二十センチメートル。書写年代不明。日本大蔵経本とは經典掲載の形式が異なり、經典を全文挙げずに省略した形で挙げている。注釈文の本文にも相違・異動がある。成田図書館蔵本は未見である。

刊本としては、明暦元年刊本、延宝三年刊本がある。どちらも形態・内容ともほぼ同一。刊記不明本は未見。活字本である日本大蔵経本は、「日本大蔵経編纂会会報」第十号（大正五年一月）所収「第十回刊行書に就て」解題には、「奈良法隆寺の古写本に依り」とあり、これが底本だと思

われる。<sup>18)</sup>「法隆寺の古写本」自体は現存するのかわかからない。

#### b 『本願薬師経鈔』に引用された典籍

書名が記載された典籍について述べる（表1）。

表1 善珠『本願薬師経鈔』に引用されている典籍（書名あり）

No.	頁	書名	本文	備考
1	154上	小品	我若不持戒当堕恶道中不得人身。况能成就衆生淨仏国土具一切智。	摩訶般若波羅密經（大正蔵8、二八二b）
2	154上	尼乾経	一切功德助道之行以戒為本。持戒為始。若不持戒乃至不得野干身。何況当得功德之身。 （云云）	大薩遮尼乾子所説經（大正蔵9、三五九a）
3	154下	書	過而能改是謂无過。	広弘明集（大正蔵52、三〇七b）
4	155上	経	犯已而悔是第二白法。至心懺悔。	広弘明集（大正蔵52、三二四a、b）
5	156下	倫	此経以淨土因果為所明宗。以勸万機修福除障為其意趣。即依初題□所明宗。	不明。唐・道倫（道倫とも）撰述「薬師経疏」か